

令和6年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立雪谷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・体力や運動能力に自信がなくても、楽しく運動することができる生徒が増えた。
- ・学年が上がるごとに、授業への取り組み姿勢が向上している。

(2) 課題

- ・主運動には一生懸命取り組むが、準備運動への取り組み方に課題のある生徒がいる。
- ・男子の技能向上のため、目的に応じて男女共修と別修を使い分けるなどの工夫が必要。

2 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体を動かす意欲はあるが、新型コロナウイルスの流行による体力低下がみられる。 水泳において、男女共修に抵抗感のある生徒がいる。	指摘されたことを改善することはできるが、見本や手本と自分の動きを比べ、課題を見つけること、改善策を考えることに課題がある。	授業の流れやルールを覚え、主運動へは意欲的に活動することができた。 集合が遅く、遅刻に対する意識が薄い。準備運動やその他の活動についても、必要性を理解し、積極的に授業に取り組むことが課題。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
コロナウイルスによる体力低下は、解消傾向にある。 球技には意欲的に取り組んでおり、技能も向上している。一方水泳に苦手意識がある生徒が多く、能力差が大きい。	昨年度多くの種目でICTを使用した効果か、得た知識をもとに自らの動きを分析し、改善する能力が向上している。	授業の流れを把握し、主運動やグループワークはもちろん、準備や片付けにも積極的に取り組むことができた。 準備運動の必要性を理解し、主体的に取り組むことが課題。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体力、特に持久力に低下が見受けられる。 また、水泳に於いて、1泳法しか泳げない生徒が各クラスに5～6人おり、泳力差がある。	運動の重要性を理解している生徒も多いが、その反面、各種目にただ取り組むだけの生徒もいる。	授業開始も早く、準備体操を率先して正しく行う生徒が多くいる。 各種目の用意、片付けがいつも同じ生徒が率先しており、遣らない生徒もいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
健康管理に配慮しながら、運動時間をできる限り長く取れるような授業展開を心掛ける。 ペアや男女グループでの活動を設けたりスモールステップを設定することで、できる喜びを感じながら楽しく授業に取り組むことができるようにする。	自分や仲間の動きの中から良いところを見つけ、意見交換をしたり、課題に対してアドバイスを送る場面を設ける。その中で動きの課題を見つけ、解決策を相談することで自分の言葉で表現できるようにする。	準備運動の必要性や、主運動との結びつき、時間に対する意識を生徒が理解できるようにする。 また、積極的に授業に取り組む意欲を高めるために、ペアやグループでの活動の場をより多く設け、教わるだけでなく、生徒同士が教え合うことができる環境を整える。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目的に応じて男女共修と別修を使い分け、誰もが技能の向上を図れるよう工夫する。 引き続き各単元でスモールステップを設定し、できる喜びを感じながら楽しく授業に取り組むことができるようにする。	ICT は引き続き活用するが、ICT を使用しない場面でも運動の分析と改善ができるようにする。授業の中で自分や仲間の良い所を見ついたり、課題を解決するための方法を表現する場を設ける。	準備運動の必要性や、主運動との結びつきを生徒が理解できるようにする。 生徒が意欲的に授業に取り組むことができるよう、課題を明確にした授業を展開する。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
持久的な運動を毎時間取り入れる。また、水泳については、もう1泳法泳げるように、時間を取って取り組んでいきたい。	各種目の特性を理解させ、それに基づいた各授業の到達目標を明確に提示し、それに対する各自または各グループの創意工夫を評価していきたい。 また、各自、各グループの活動を撮らせ、スモールステップの目標を明確にさせていきたい。	各種目の特性を理解させ、それに基づいた各授業の到達目標を明確に提示し、それによって各自及び各グループが、考えて学習を進められるよう支援していく。各自または各グループが、見本となる動きと自分たちの動きの差に気付かせていきたい。